

## 祭文（2021年6月14日）

昨年に続き、八重さんと呼ばせていただきます。

八重さん、昨年の「新島八重遺墨展」で八重さんの遺墨を紹介しましたが、本年の企画として去る5月8日に「日本人の魂と新島八重」の著作がある「櫻井よしこ講演会」を主催しました。当日、講演会の前に櫻井よしこ先生は山本家の菩提寺ここ大龍寺を訪れ住職夫妻と旧交を温めました。講演を引き受けてくださる条件として山本家菩提寺の大龍寺を訪れたいという強い要望を頂いたのです。

八重さんがおっしゃった「昔の習慣」とはまさに徳川幕府を頂点とした封建時代を指していました。八重さんが暗唱した「日新館童子訓」の三大恩の一つ「君主の為」に当時の会津武士は果敢に戦いました。当時の敵は薩摩・長州を主力とする言うならば寄せ集め軍隊で姿もはっきり見えませんでした。ところが現代、私たちは新型コロナという見えない敵と戦っております。コロナ禍の当初、クラスターが発生した豪華客船の乗客を療養した千葉県の日月ホテルの前の砂浜に地元勝浦市民が「また会いましょう」などとメッセージを書きました。退去する人々はホテルの窓からそれを見て感動したと言います。

一方でその客船の乗客の療養先である病院がある他の地域では反

対運動がおこるなどコロナ罹患者を差別するような風潮は未だに残っています。

それらをニュースで見るたびに八重さんが繰り返し、繰り返し会津女学校の生徒に伝えようとした「美德」の2文字が頭をよぎります。

その八重さんだったら、当時新島襄の言っていた、本来あるべき人間の良心に従って行動しようと呼びかけるのではないのでしょうか。

八重さんが眠る京都の墓地を訪問することはコロナ禍の為まだ実現していませんが、本顕彰会の活動について、なるべく早い時期に墓前に報告に行きたいと思っております。

本日は、コロナ禍の中、顕彰祭に参加頂いた皆様方に感謝申し上げますとともに、皆様方の熱い思いを八重さんの魂にご報告し私の言葉といたします。

とんしゅ  
頓首 再拝

令和3年6月14日

新島八重顕彰会

会長 慶徳栄喜